

No. 2899

2018-2019年度

会 長 上野山 栄作

幹 事 嶋田 崇

R広報委員長 菅原 佳典

担当：丸山委員、中村副委員長



第2640地区

例会日 毎週木曜日 12:30
 例会場 紀州有田商工会議所6F
 事務所 〒649-0304
 有田市箕島33-1
 紀州有田商工会議所2F
 有田ロータリークラブ
 Tel (0737) 82-3128
 Fax (0737) 82-1020
 創 立 昭和34年6月15日
 ホームページ <http://www.aridarc.jp>
 e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



2018-2019年度クラブ方針

Take Action and Enjoy!

行動を起こそう！そして楽しもう！



本日のプログラム

平成31年2月7日 第2900回

- ・ 外部卓話：宇治川 貴史 氏「ロータリー平和フェロースhipプログラムで学んだことー戦争と紛争と平和ー」
- ・ ソング：「君が代」「奉仕の理想」

次回のお知らせ

平成31年2月21日 第2901回

- ・ クラブフォーラム
- ・ 創立60周年記念事業について
- ・ ソング：「それでこそロータリー」

前回の報告（第2899回例会）

開催日 平成31年1月31日(木)

点 鐘 (上野山(栄)会長)

ゲストの紹介 (石垣(泰)親睦活動委員長)

ゲスト：中西 秀明 様

(トヨーカネツソリューションズ(株)工場長)

会長の時間 (上野山(栄)会長)

「職業奉仕」

1月は職業奉仕月間です。本日はトヨーカネツソリューションズ様・木本産業様にお世話になり、ローテーションデーで見学させていただきます。機械製造業の最先端を拝見できる事を楽しみにしております。又、中西工場長様にも卓話を聞かせていただき勉強させていただきます。よろしくお願い致します。



今日は私の職業奉仕の考え方を少しでも聞いてください。アーサー・フレリック・チェルドンが1902年に提唱した He profits most who serves best をロータリーの標語として1911年にオレゴン、ポートランドで行われた全米大会で発表されて以来、ロータリーの本質として我々の中で生きています。2010年の規定審議会で釧路北クラブから提案された「社会奉仕に関する1923年の声明」の第一項を、奉仕の哲学の定義として使用することを検討するようRI理事会に要請する件」が採択され、これによって、決議23-34に明記されている He profits most who serves best と service above self がロータリーの奉仕哲学の定義として正式に採択されたことで、特にシェルドンが提唱した経営学の理念 He profits most who serves best がロー

タリーの奉仕理念として正式に認められたことを意味し安心できます。

この奉仕哲学は非常に広義の意味を含むと思いますが、その中でも、私は職業奉仕で最も大切なことは自分の職業で社会に便益を与えることだと考えます。自分の職業で人々の生活や文化をより良く変革できるような取り組みこそ職業奉仕の醍醐味だと思います。ドクターなら患者さんに最善の医療を施す。世界にない新しいものづくり。また、価格をリーズナブルにする努力もそうでしょうし、商品の質を上げていく事、テクノロジーの開発等、あなたの職業で世の中を良くすることこそ職業奉仕だと思います。トヨーカネツソリューションズ様もそのようなモノづくりをされていると日頃から感じています。そして、職業奉仕を行うということは経営力が最も必要だと思います。企業(商売)は生き物であります。老舗の名店でブランド力のある商品であっても時代に合わせた少しずつの改良を積み重ねています。常に変革していかなければ企業は存続出来ません。

商品にもサイクルがあります。利益を確保しつつ、その間に次の商品を準備しなければなりません。おそらく私を含め、多くの商売人は模倣性から始め進化し、オリジナルな商法へとパラダイムシフトするパターンが多いと思います。その変革時期に理念を「社会に役立つ」と考え、経営をシフトして行くことが重要だと思います。そこには利益を意識することも重要ですが、そのような理念を掲げた場合にこそ利益は自ずと付いてくると実感できるのです。

職業奉仕＝世の中から求められる企業(仕事)であること＝企業の継続 となるのだと思います。

しかし、最近では一発当てて、企業売買というようなベンチャー企業も多いですね。せっかくこの世に生まれた限りは社会に何か残せるような人間になりたいものです。そしてロータリアンである私は職業奉仕の理念を大切にしていきたいと思っています。

幹事報告

(嶋田(崇)幹事)

1. 有田2000RCより創立20周年事業の開催案内→会長 & 幹事
2. 2月のロータリーレート→110円/1ドル

委員会報告

* 情報研修委員会(脇村委員長)

2/12、14の2日間、18時30分より後期IDMを開催しますので、御出席をお願いします。

* 60周年記念事業(橋爪(誠))

次週2/7例会終了後、60周年記念事業の打合せを開催いたします。関係者の皆様、時間調整よろしくお願ひいたします。

出席報告

(木本例会運営委員長)

本日の会員数31名

(出席規定免除会員9名)

出席会員数21名

(出席規定免除会員4名)

80. 77%

1/10 88. 00%

MU:なし

ニコニコ箱の報告

(松村SAA)

上野山(栄)君:本日はトーヨーカネツソリューションズ様にはローテーションデーにご協力下さいまして誠にありがとうございます。又、木本産業様には場所をご提供下さいましてありがとうございます。中西工場長様、卓話ありがとうございます。

嶋田(崇)君:トーヨーカネツソリューションズ様、木本産業様中西秀明さん、本日は大変お世話になります。

石垣(洋)君:本日はトーヨーカネツソリューションズ様にはローテーションデーで大変お世話になります。木本産業様には場所をご提供下さいましてありがとうございます。中西工場長様、卓話をありがとうございます。

北畑君:本日はトーヨーカネツソリューションズ工場長中西様の卓話と工場見学、よろしくお願いします。

中村君:木本隆昭様、本日はありがとうございます。中西秀明様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。

川口君:本日はトーヨーカネツソリューションズ中西様、卓話と工場見学、宜しくお願い致します。勉強させて頂きます。

上野山(捷)君:本日は大変お世話になります。

橋爪(誠)君:中西工場長様、本日は大変お世話になります。ご協力ありがとうございます。

児嶋君:中西秀明様、有田ロータリーへようこそ。卓話よろしくお願いします。トーヨーカネツソリューションズ見学、たのしみです。

橋本君:中西様、本日の卓話よろしくお願いします。

宮井君:トーヨーカネツソリューションズ様、本日はお世話になります。中西様、卓話よろしくお願いします。

木本君:中西秀明さん、本日はご協力ありがとうございます。卓話、宜しくお願いします。

井上君:中西工場長様、今日はよろしくお願ひします。

脇村君:木本さん、本日のローテーションデーありがとうございます。よろしくお願いします。

菅原君:中西秀明様、大変ご無沙汰しております。本日は卓話宜しくお願い致します。

岩本君:木本様、本日はお世話になります。トーヨーカネツソリューションズ中西社長様、本日の卓話、有難うございます。

児島君:中西工場長様、お話楽しみです。木本さん、お世話になります。

松村君:トーヨーカネツソリューションズ様、今日はお世話になります。宮井さん、あたたかいお茶の配達ありがとうございました。

卓話

「木本産業物流システム事業部から
トーヨーカネツソリューションズへの変遷」



トーヨーカネツソリューションズ
株式会社 工場長
中西 秀明 様

《物流システム事業部の歴史》

昭和33年 和歌山県有田市にて故・木本秀夫が木本商店を創業

昭和42年 本社および工場を建設する為 現在の有田市野187番地を購入

昭和44年 法人組織として木本産業株式会社を設立

平成02年 物流システム事業部を新設

平成09年 本社 新社屋完成

平成25年 木本産業物流システム事業部をグループ会社であるTKLC(株)に統合

平成27年 TKSL(株)和歌山工場建設(第二工場)

1990年代、人や物の移動はスピード時代を迎え、さらに産業は効率化・正確性を追求する中、我々、木本産業も新たな時代に挑戦して地元での雇用拡大と地域貢献、安定・継続した雇用を目的として物流システム事業部を新設しました。物流システム事業部は先ず標準コンベヤの製作から技術を学び、仕分コンベヤ、特殊仕様コンベヤ、装置物(ロボット)と色々な製品を工場で作成できる技術力とノウハウを身に付けて行きました。一方で工場の敷地面積も、その時の状況に合わせて都度増築を行い現在の姿に至っています。

《TKSL和歌山工場の経緯》

物流システム事業部がスタートした当初、トーヨーカネツ株式会社様の物流事業の仕事をメインに工場での製作を行っていましたが、2002年物流事業を分社化しトーヨーカネツソリューションズ株式会社に社名が変わりました。木更津にあった工場を閉鎖、ファブレス化を行い、全製品をアウトソーシングする事となりました。しかしファブレス化による技術継承問題に直面、自社工場の重要性を改めて認識し、予てより物流システム事業で幅広い分野の知識を構築していた弊社の技術力が買われ、工場の拠点を和歌山に置くことが決まりました。それに伴い木本産業物流システム事業部はTKLC(株)に統合を行い、物流メーカーとしての工場に特化させる改革を進めました。その改革の一環としてみかんプロジェクトを立上げ、フェーズⅠでハード改革(工場設備の刷新・第二工場建設)、フェーズⅡでソフト改革(意識改革)を行い、現在も活動を進め工場目標である生産計画でのモノづくりを目指し全員参加で活動を行っております。また当初物流システム事業部を新設した時の目的(地元での雇用拡大と地域貢献、安定・継続した雇用)も達成したと思っておりますが、更なる飛躍に向けて社員一丸となって日々邁進しております。

閉会・点鐘 (上野山(栄)会長)

ローテーションデー

トーヨーカネツソリューションズ(株)の工場見学

